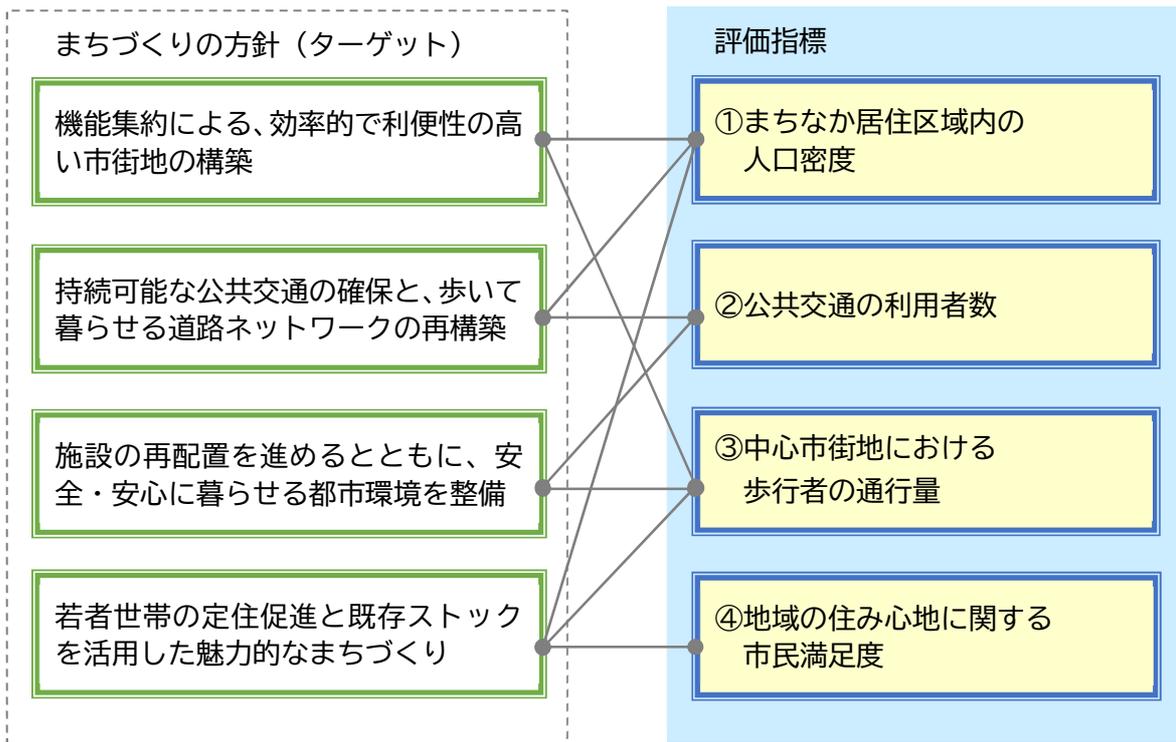




## 第8章 目標値・評価指標

### 8-1 目標値及び評価指標の設定

本計画で設定したまちづくりの方針（ターゲット）に基づき、計画の進捗状況や妥当性を定量的に評価する観点から、客観的なデータの取得が可能なものを評価指標として以下のように設定します。



#### ■目標値の設定

評価指標	単位	現況値	目標値
①まちなか居住区域内の人口密度	人/ha	24.5 (H27年)	21.0 (R22年)
②公共交通の利用者数	人/日	175 (R1年)	現況と同程度以上 (R22年)
③中心市街地における歩行者の通行量	人	798人 (H30年)	800人 (R22年)
④地域の住み心地に関する市民満足度	%	75.6 (R2年)	85 (R22年)



① まちなか居住区域内の人口密度

まちなか居住区域内(準備区域を含む 338.1ha)の人口密度は 24.5 人/ha で、このまま推移した場合、令和 22 年(2040 年)には 16.2 人/ha にまで減少することが見込まれます。

そのため、本計画では、まちなか居住区域内の人口密度の維持を目標とし、本市の第3次総合計画における人口目標も参考に、予測値の 30%増となる 21.0 人/ha を目標値とします。

■まちなか居住区域内の人口密度の目標値

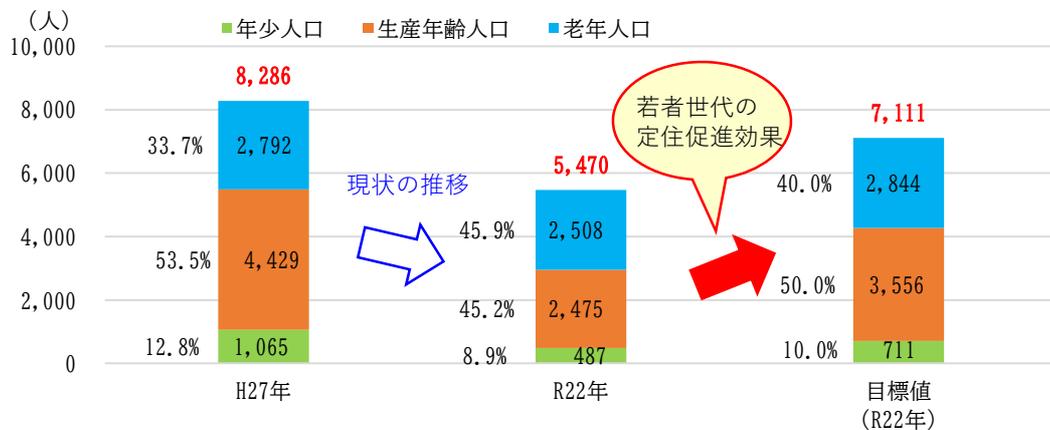
	現況 (H27年)	予測値 (R22年)	目標値 (R22年)	対予測値比	備考
新見市人口	30,658人	17,139人	21,795人	127.2%	新見市第3次総合計画
まちなか居住区域人口	8,286人	5,470人	7,111人	130.0%	本計画独自
まちなか居住区域人口密度	24.5人/ha	16.2人/ha	21.0人/ha		

※この目標値は、まちなか居住区域及びまちなか居住準備区域の人口及び面積より算出することとします。

人口密度の維持に向けては、特に、若者世帯のまちなか居住と定住促進を図り、年齢3区分別人口割合における「生産年齢人口」及び「年少人口」の割合の増加を目指します。

■年齢3区分別人口割合の目標

年齢区分	現況 (H27年)	予測値 (R22年)	目標値 (R22年)	備考
老年人口	33.7%	45.9%	40%	若者世帯のまちなか居住と定住促進
生産年齢人口	53.5%	45.2%	50%	
年少人口	12.8%	8.9%	10%	



まちなか居住区域人口の将来推計及び目標値 (年齢3区分別)

※年少人口：0歳～14歳、生産年齢人口：15歳～64歳、老年人口：65歳以上  
 ※年齢不詳は含まない



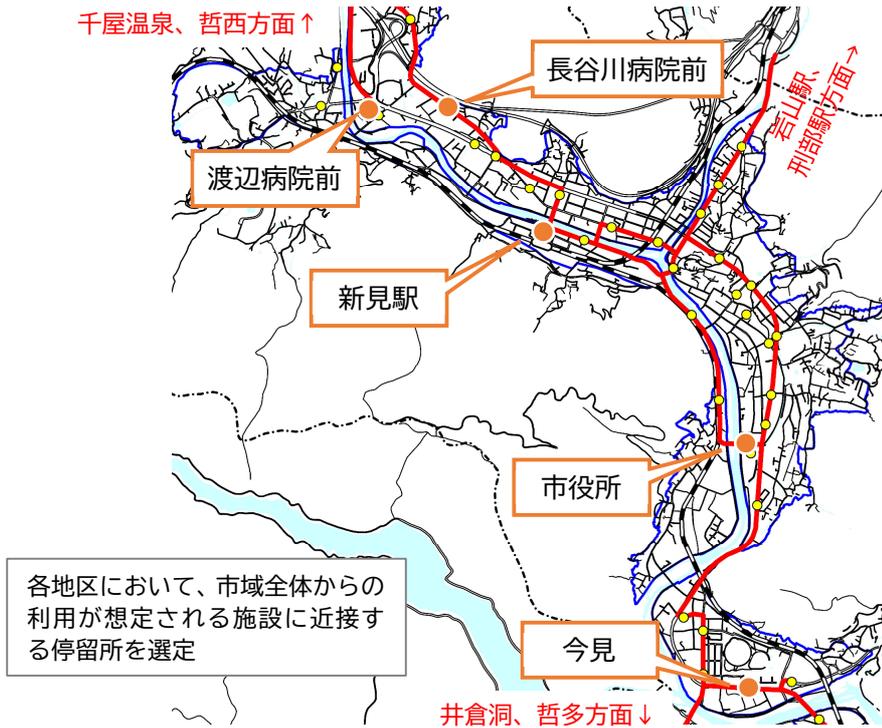
② 公共交通の利用者数

まちなかにおける公共交通の利用者数を測る目安として、市内の各拠点と中心市街地を結ぶ系統の路線バス利用者数に着目し、特に、市域全体からの利用が想定される施設に近接する5箇所の停留所を対象として、現況と同程度以上の乗降客数を目標値とします。

※本市では、令和5年3月を目途に地域公共交通計画を策定する予定であることから、具体的な数値はこの計画が策定された後に設定します。

■対象とする停留所

停留所名称	地区	近接する施設
新見駅	新見駅周辺～ 新見 I C 周辺	新見駅
渡辺病院前		渡辺病院
長谷川病院前		長谷川病院 等
市役所	市役所周辺	新見市役所 等
今見	正田商業核周辺	サンパーク新見 等



■公共交通の利用者数の目標値

1日の乗降客数	現況 (R1年)			目標値 (R22年)
	乗車	降車	乗車+降車	
5箇所合計	84人	91人	175人	現況と同程度以上

※現況値は「路線バス乗降調査」より、コロナ禍の影響が比較的少ない令和元年6月のデータを使用  
 ※乗降調査は区界停留所ごとの集計であり、乗降客数には直前区界停留所以降の数を含む

③ 中心市街地における歩行者の通行量

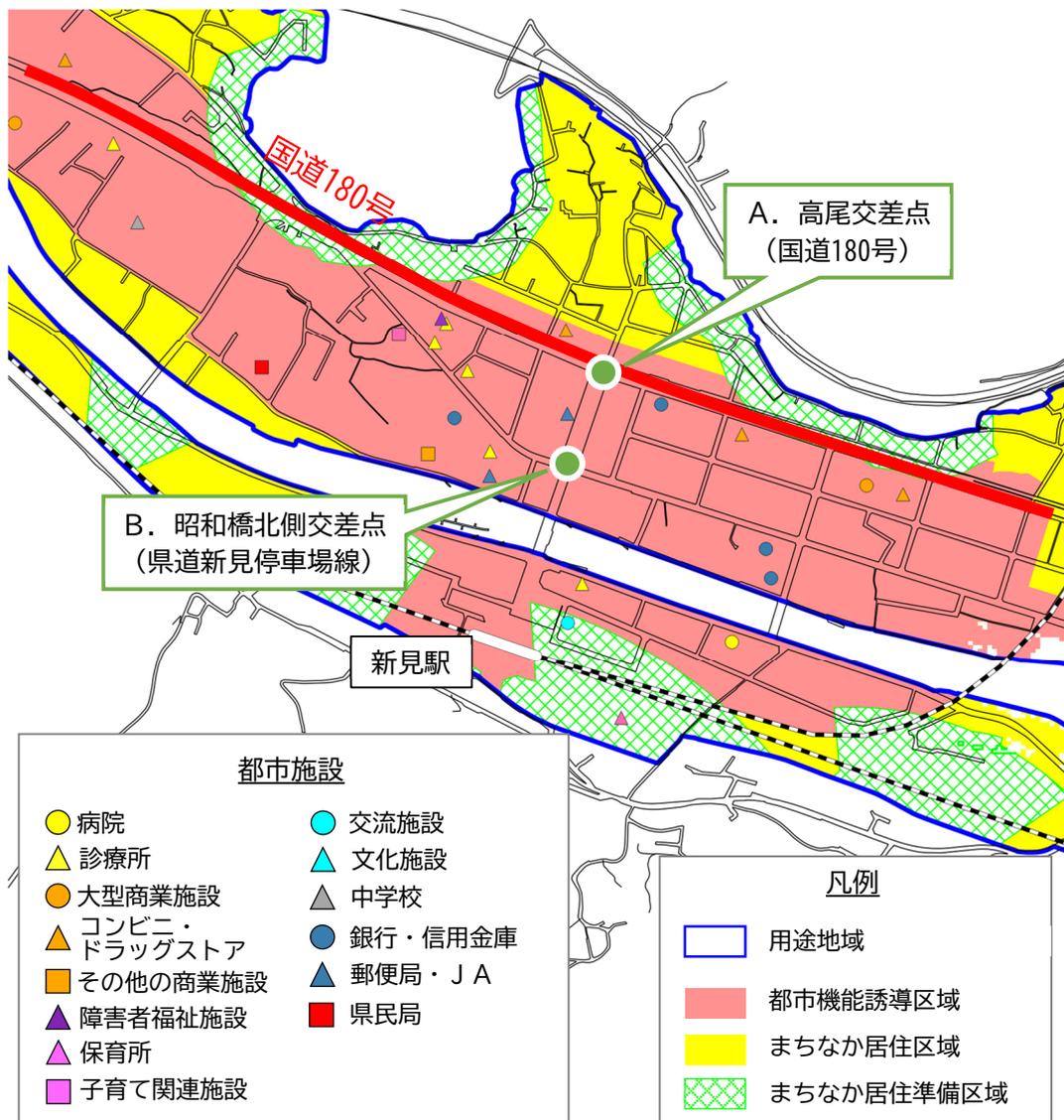
都市機能誘導区域の中で、特に都市施設が集積し、交通結節点に近接した2地点での歩行者の通行量を目標値とします。

人口減少が進む中でも、都市施設のさらなる集積、一定以上の人口密度の維持、公共交通の利便性向上や回遊性の向上により、現況と同程度の維持を目指します。

■中心市街地における歩行者の通行量の目標値

現況 (H30)			目標値 (R22)	備考
A地点	B地点	A + B	A + B	
389人	409人	798人	800人	現況と同程度

※現況値は交通量調査より、日中12時間の通行量の集計値〔調査日：平成30年3月7日（水）〕



歩行者交通量の調査位置図



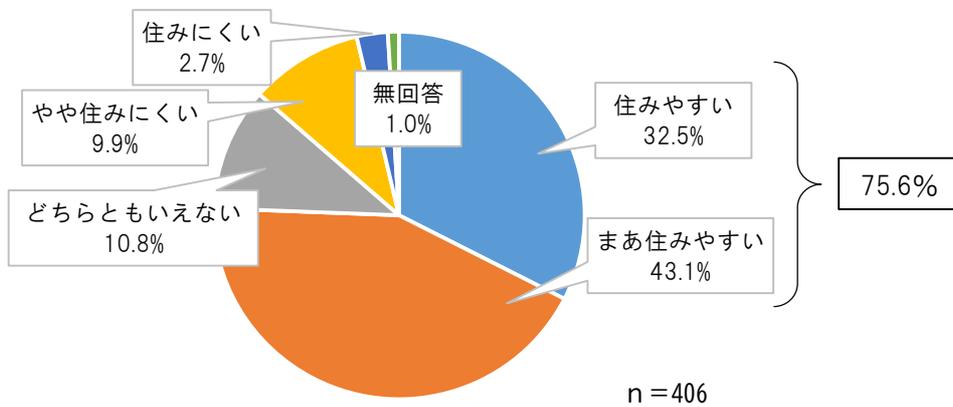
④ 地域の住み心地に関する市民満足度

毎年実施している市民アンケート調査において、都市計画区域内（上市・高尾・西方・新見・金谷・正田・石蟹）に住んでいる市民の住み心地に対する満足度は、「住みやすい」＋「まあ住みやすい」を合わせて75.6%となっています。（令和元年度）

立地適正化計画に関連する施策の実施により、市民の住み心地に対する満足度について、現況から10ポイント程度の向上を目指します。

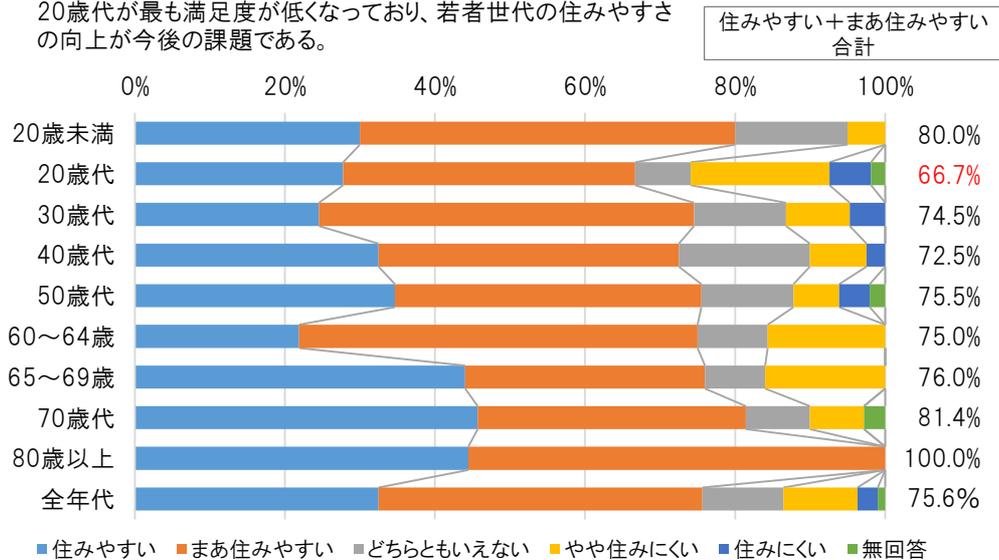
■まちなか居住区域内の人口密度の目標値

市民の住み心地に対する満足度	現況 (R2)	目標値 (R22)
「住みやすい」 + 「まあ住みやすい」	75.6%	85%



(参考)年代別の分析

20歳代が最も満足度が低くなっており、若者世代の住みやすさの向上が今後の課題である。



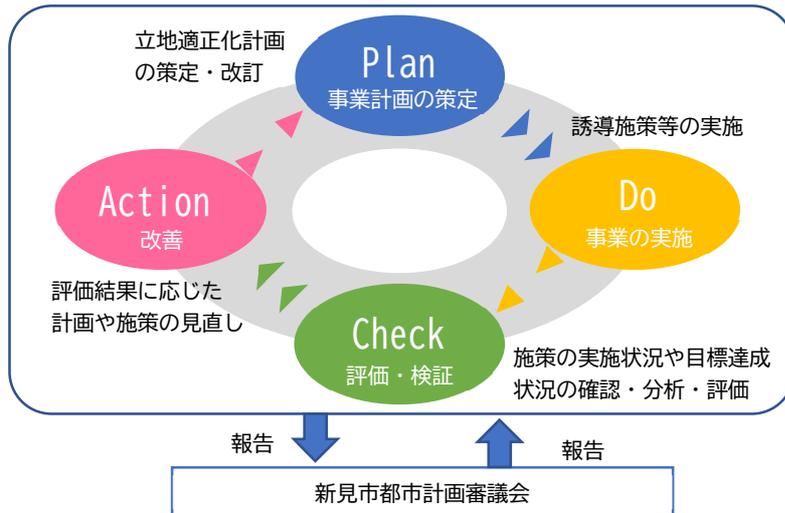
令和2年度新見市市民アンケート結果より、都市計画区域内の在住者を抽出して集計

n = 406

## 8-2 進捗管理の方針

本計画は、おおむね 20 年後の令和 22 年（2040 年）を目標年次としています。

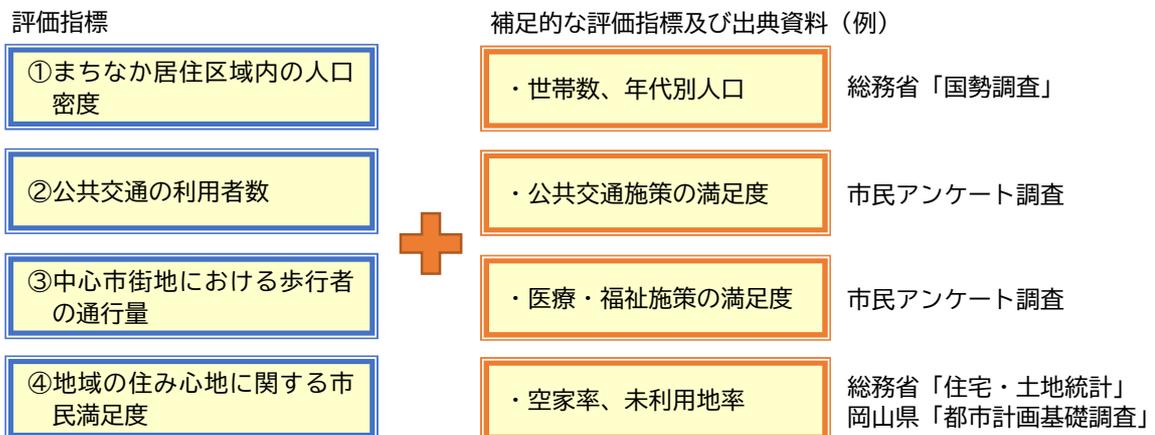
その進捗管理のため、おおむね 5 年を 1 サイクルとして、計画に基づく施策の実施状況の確認や、目標達成状況の確認・分析・評価を行います。その上で、計画や施策の見直し・改善を図る、いわゆる「PDCA サイクル」を繰り返すことにより、計画の目標とする都市構造の着実な実現を目指します。



## PDCAサイクルのイメージ（おおむね5年で1サイクル）

評価にあたっては、施策や目標の達成状況に加えて、「都市構造の評価に関するハンドブック」等に基づく指標も参考としつつ、補足的な評価指標も加え、客観的かつ定量的な視点から実施します。

更に、本市による自己評価結果について、専門性・中立性を有する新見市都市計画審議会に報告し、意見を踏まえながら施策の充実・強化などの改善策を検討します。



※市民アンケートは、都市計画区域内の在住者による回答を抽出して活用